

図面の投影法(第三角法)

立体形状を図面として表す場合、平面の投影図として表します。

投影とは光をある方向から当てた際にできる影で、同じように立体形状を平面的に表現する方法が投影図です。

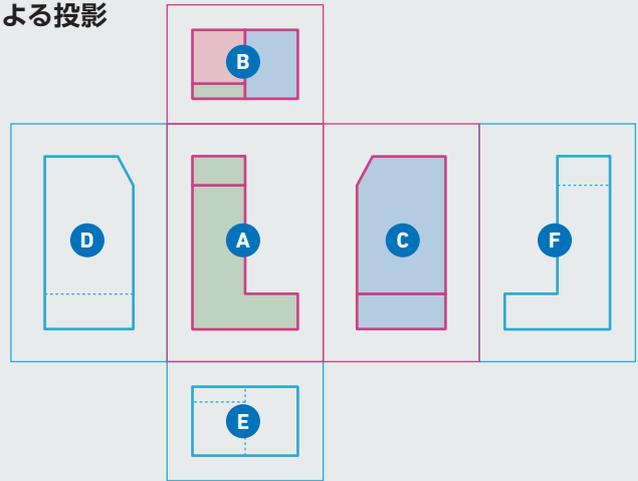
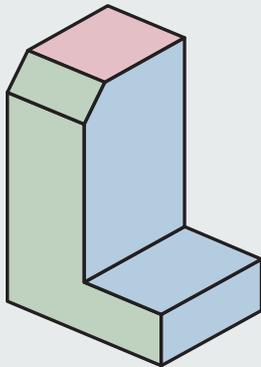
投影図には投影方法によりいくつかに分類されますが、タカチでは第三角法で表現をしています。

第三角法とは？

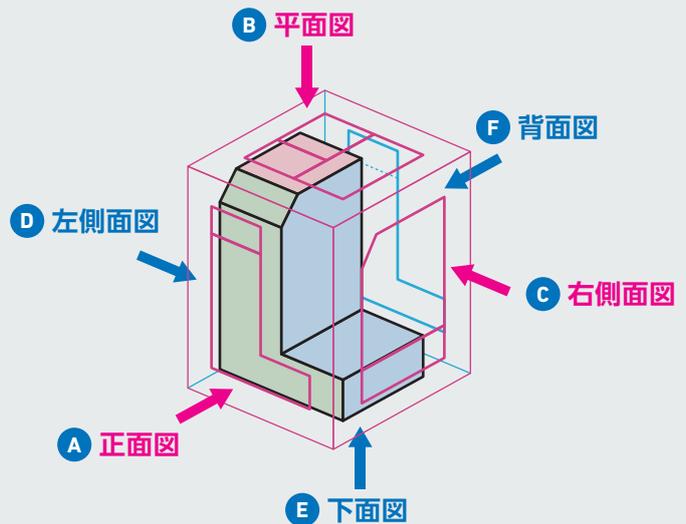
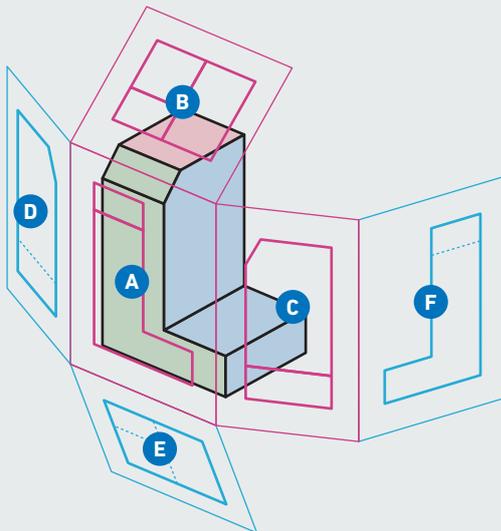
第三角法とは、製図で用いられる正投影図法の一つで、通常は、**A正面図**・**B平面図**・**C or D側面図**の**三面図**で構成されます。

三面図

●第三角法による投影



●第三角法の考え方



立体形状の対象物は1つの投影図だけで表現することはできません。

対象物は3次元なので最低でも2つ以上の投影面に投影させなければ形状を把握できません。

正面図、平面図、側面図を三面図と言い、立体形状を表現する場合に最低限必要な投影図になります。

また、省略して問題がない投影図は描く必要はなく、記号や矢印で説明する場合は図の配置や位置に決まりはありません。